

# 登山月報

平成23年度第2回理事会・臨時総会	1
第41回 Mountain World	7
日本の山岳切手シリーズ⑥	8
お国自慢の山④	8
BMC International Winter Climbing Meet 2012 報告	9
2012 ISMF Asian Championships	11
氷雪技術研修会	12
千葉県山岳連盟創立60周年記念式典・祝賀会	12
JMA、寄贈図書、編集後記	13

## 平成24年度事業計画・収支予算を承認 平成23年度第2回理事会・臨時総会

### 平成23年度第2回理事会

#### 1 日 時

平成24年3月10日(土)14時00分～18時00分

#### 2 場 所

主婦会館プラザエフ4F「シャトレ」  
東京都千代田区六番町15番地

#### 3 会議の成立状況(定款第26条)

定数32名(定足数22名)、出席者27名、委任5名、計32名

#### 4 出席者

神崎忠男会長、内藤順造副会長、國松嘉伸副会長、松元邦夫副会長、尾形好雄専務理事、小野倫夫、服部一雄、尾形一幸、西内博、仙石富英、佐藤光由、石倉昭一、高山雅夫、水島彰治、宮本義彦、高田和彦、堀井啓介、伊藤克己、遠山誠之介、蓬郷隆治、京才昭、足達敏則、田場典淳、相良忠麿、谷口浩平、寺内丈行、永井豊各理事 以上27名

委任者：八木原暎明副会長、安藤武典、田福正治、北山真、堀井昌子 以上5名

同席者：福田昇、岡本忠良両監事

#### 5 神崎会長挨拶

新公益法人への移行に向けて大詰めを迎えている。新公益法人になれば組織が社会に真価を問われる。名実共に内容の伴った公益法人を目指すためにこの一年間じっくりと組織や事業の内容を吟味していきたい。そのために今回は理事会と臨時総会を2日間に分けて開催することにした。多くの議案を十分に審議をして頂き、総会に臨みたい、と挨拶。

#### 6 議事役員を選出

定款第25条の規定により神崎会長を議長に選出

#### 7 議事録署名人の選出

定款第30条の規定により尾形一幸(福島)理事及び

谷口浩平(特別)常務理事を指名

#### 8 議 事

(1)第1号議案 平成23年度事業経過報告について

尾形専務理事から資料を事前配布しているので、詳細説明は割愛し、各担当常務理事から補足説明の後、質疑を受けたいと説明し、承認が諮られた。

◎第1号議案、提案通り承認。

(2)第2号議案 平成23年度会計経過報告について

相良常務理事より議案書に基づき、平成24年2月29日までの収支報告、一般会計、特別会計について説明され、承認が諮られた。

質疑の中で中高年安全登山事業支出が予算オーバーになっているので、補正予算で調整しておいたかどうか、との指摘があった。

◎第2号議案、提案通り承認。

(3)第3号議案 平成24年度事業計画(案)について

尾形専務理事から平成24年度の事業計画について説明があった後、各専門委員会の担当常務理事から補足説明を行い、承認が諮られた。

◎第3号議案、提案通り承認。

(4)第4号議案 平成24年度収支予算(案)について

相良常務理事より平成24年度予算編成方針に基づき、収支均等を原則とした収支予算について説明。

尚、新公益法人への移行に向けて平成24年度予算書は新公益会計基準の様式で作成したことを説明し、承認が諮られた。

\*宮本：23年度のような個別事業の予算が分かる予算書はいつ提示されるのか。

○相良：別表のような形で説明資料は作れるが、新様式の予算書では個別事業を表現できなくなってしまった。

○内藤：事業毎にまとめてあるので、個別に提示するのは難しい。内訳表/損益計算ベースの一覧は、管理

費の配賦基準が完成してなく、配賦については検討中であることもご承知願いたい。

\*服部：岳連としても助成事業の予算が分からないと事業計画が立てられないので、宜しく願いたい。

○相良：助成事業の予算などを含め補助資料を作成して通知したい。

◎第4号議案、提案通り承認。

(5)第5号議案 平成23年度共済会事業経過報告について

(6)第6号議案 平成24年度共済会事業計画(案)及び予算(案)について

議長より第5号、第6号議案とも関連議案なので、一括説明した後、承認を諮りたいと提案され、了承された。

尾形専務理事より議案書に基づいて説明し、承認が諮られた。

\*小野：山岳共済会の拡張を図るには年会費1,000円がネックになっている。日山協では山岳共済会を別組織にしているが、どう云う形で運営しているのか。

○西内：山岳共済会の保険は団体契約の保険で、団体契約によって保険料が安くなっている。その団体を山岳共済会として日山協が運営しており、その運営事務を瀬田工業に委託している。委託料は年間60万円である。山岳保険の保険料に関しては、どこの代理店を通しても保険料は一定であり、瀬田工業を通したから高くなる事はない。山岳共済会の年会費1,000円は、山岳共済会からの業務委託費として日山協が受け入れ、全ての活動の原資となっている。

\*小野：瀬田工業は60万円で行っているのか。

○西内：保険代理店として保険会社から保険料に対する代理店マージンは受け取っている。60万円支払ってはいるが、『登山月報』に年間240万円の広告料を頂いている。

◎第5号議案、第6号議案とも提案通り承認。

(7)第7号議案 公益社団法人移行時の会長・副会長候補者の推薦について

尾形専務理事より議案書に基づいて公益社団法人移行時の会長・副会長候補者の推薦についての承認が諮られた。

◎第7号議案は、提案通り会長候補者として神崎忠男氏の推薦が承認され、副会長候補者の推薦については、「会長・副会長・監事選考委員会」で選考し、5月の理事会及び総会に諮り、選任することで承認。

(8)第8号議案 公益社団法人の定款変更(案)及び諸規程について

尾形専務理事より議案書に基づいて先ず公益社団法

人の定款変更(案)について平成23年11月13日開催の理事会で未承認だった定款第21条の役員の定数と附則に記載する公益社団法人移行時の会長(代表理事)についての承認が諮られた。

◎公益社団法人日本山岳協会への定款変更(案)について、提案通り承認。

次に尾形専務理事より公益社団法人の会員規程(案)、加盟団体規程(案)、役員選考規程(案)の規程についての承認が諮られた。

\*尾形(一)：新しい加盟団体についてJACや高体連等を想定しているとのことだが、現状でも岳連に加盟しているところもあれば加盟していないところもある。日山協に加盟するとなれば支部等は岳連から抜けることになるのか。また、日山協として個人会員登録制はどのように考えているのか。

○内藤：JACと高体連の件に関しては本部を対象にしているので懸念には及ばない。岳連に加盟している支部等はそのままである。

個人登録制度の問題は、財源確保に関連することであり、先程の財源計画では登録料で括ってあるが、これは選手登録ばかりではなく個人登録も見据えている。然し乍ら、現状では総体的な議論がなされておらず、題目は唱えても実行に移せないでいる。日山協の財務状況は限界にきており、何としてもこれを打開していかなければならない。財務計画は10年のスパンになっているが、実情からいけば4～5年で達成しなければならないほど逼迫している。この財務計画から「何が課題か」を確認していただきたい。

\*田場：今度の会費見直しは、沖縄のように構成団体数が1団体しかない県は、ほんとうに助かるので検討を宜しく願いたい。

○松元：都岳連も台所が苦しい中、446千円もの値上げでは到底飲めないが、緩和措置を取って貰ったので、値上げを了承した。都岳連はこの値上げを受け入れるので他の値上り県の岳連にも協力をお願いしたい。

\*伊藤：加盟団体規程第8条の文言だと競技会をするためだけに地域連合会を作るように取られるので、ここは削除すべきではないか。

○尾形(好)：ご指摘の通りここは「・・必要に応じ」まで削除したい。

○議長：ほかに質疑が無ければ承認を諮りたい。

公益社団法人日本山岳協会会員規程(案)について

◎提案通り、承認。

公益社団法人日本山岳協会加盟団体規程(案)について

◎第8条の一部削除したもので承認

公益社団法人日本山岳協会役員選考規程(案)について

◎提案通り、承認。

## 9 報告

(1)公益社団法人移行時の監事候補者の推薦について

尾形専務理事より監事候補者については、平成24年2月に開催された評議員会で「会長・副会長・監事選考委員会」で選考し、5月の総会に諮って選任することで承認されたことが報告された。

(2)公認スポーツ指導者新登録管理システムについて

永井常務理事から資料に基づき新しい登録管理システムについて説明があった。

(3)国体第2期実施競技選定に係る中央競技団体ヒヤリング調査について

高山常務理事より口頭にて経過を報告。

(4)第51回全日本登山体育大会について

仙石常務理事より開催要項について報告。

(5)岐阜国体の準備状況について

堀井理事より岐阜国体の進捗状況について報告。

(6)アンケート調査の協力依頼について

神崎会長より日山協に対するアンケート調査の協力をお願いされた。

(7)その他

・西内常務理事より「未組織登山者の指導をどうするのか。ハイキングやトレッキングする人たちのインストラクター、リーダー等の資格認定を考えるとその人たちと日山協をどう結び付けていくのか考えていかななくてはならない。この資格付与と個人登録制度の問題を新公益法人移行後、早急に検討すべきではないか。労山は2月の総会で個人会員制度を承認した。既存の団体制度とは別な制度として8月からスタートする。」との提言がなされた。

・神崎：JACでは4つのプロジェクトを立ち上げてこの2年間精力的に活動している。日山協でもプロジェクトチームを立ち上げて幾つかのテーマについて内容を練っていただきたい。

## 10 閉会

---

---

### 平成23年度臨時総会

---

---

#### 1 日時

平成24年3月11日(日)10時30分～15時15分

#### 2 場所

主婦会館プラザエフB2「クラルテ」  
東京都千代田区六番町15番地

#### 3 会議の成立状況(定款第26条)

定数57名(定足数38名)、  
出席者45名、委任12名、計57名

#### 4 出席者

神崎忠男会長、内藤順造副会長、國松嘉伸副会長、八木原罔明副会長、松元邦夫副会長、小野倫夫、服部一雄、高橋時夫、濱田久晴、清野孝、尾形一幸、西内博、仙石富英、佐藤光由、石倉昭一、高山雅夫、水島彰治、遠藤俊一(代理)、宮本義彦、松本睦男、高田和彦、滝田博之、亀井正明、堀井啓介、伊藤克己、四方宗和(代理)、山並久次、吉村忠明、遠山誠之介、亀尾崇、蓬郷隆治、京才昭、小林弘之、木村康男、峯本典寛、市村藤一、足達敏則、後藤利雄、鮫島寛行(代理)、田場典淳、尾形好雄、相良忠麿、寺内丈行、永井豊、堀井昌子 以上45名

委任者：佐々木義宗、牧野治生、安藤武典、中西研一、天津邦之、田福正治、多田修、溝上春見、工藤文昭、多賀進司、北山真、谷口浩平、以上12名

同席者：岡本忠良監事

## 5 神崎会長挨拶

昨日の理事会で本日の総会議案を審議させて頂いた。新公益法人への移行も大詰めを迎えており、本協会も早く体制を整える必要がある。新しい公益法人では理事や監事の責任が重くなるので、先ずこの辺りから意識を変えていかなければならない。新生日本山岳協会のスタートに向けて皆さんにも心構えを整えてもらいたい。本日は、新公益法人に向けて重要な議案があるので、十分に審議して頂きたい、と挨拶。

## 6 議事役員の選出

定款第25条の規定により神崎忠男会長を議長に選出

## 7 議事録署名人の選出

定款第30条の規定により松本睦男(富山)及び寺内丈行(特別)を指名

## 8 議事

(1)第1号議案 平成23年度事業経過報告について

尾形専務理事から資料を事前配布しているので、詳細説明は割愛し、補足説明の後、質疑を受けたいと説明し、承認が諮られた。

◎第1号議案、提案通り承認。

(2)第2号議案 平成23年度会計経過報告について

相良常務理事より議案書に基づき、平成24年2月29日までの収支報告、一般会計、特別会計について説明され、承認が諮られた。

◎第2号議案、提案通り承認。

(3)第3号議案 平成24年度事業計画(案)について

尾形専務理事から平成24年度の事業計画について説明があった後、各専門委員会の担当常務理事から補足説明を行い、承認が諮られた。

質疑の中で、今、原発が問題になっているが将来的に再生可能エネルギー社会を形成するようなことも自

然保護啓発事業の中で取り組んでもらいたい、との提言があった。

◎第3号議案、提案通り承認。

(4)第4号議案 平成24年度収支予算(案)について

相良常務理事より平成24年度予算編成方針に基づき、収支均等を原則とした収支予算について説明。

尚、新公益法人への移行に向けて平成24年度予算書は新公益会計基準の様式で作成したことを説明し、承認が諮られた。

\*松本(富山):この予算書では分かりにくいので、事業計画に基づいた個別事業の予算が分かるような資料を出して貰いたい。

○相良:昨日の理事会でも同様の意見があったので、補足資料を提示したい。

◎第4号議案、提案通り承認。

(第5号議案の審議に入る前に東日本大震災で被災された方に対して黙祷が捧げられた。)

(5)第5号議案 平成23年度共済会事業経過報告について

第6号議案 平成24年度共済会事業計画(案)及び収支予算(案)について

議長より第5号、第6号議案とも関連議案なので、一括説明した後、承認を諮りたいと提案され、了承された。

尾形専務理事より議案書に基づいて説明し、承認が諮られた。

\*峯本(愛媛):共済会加入の案内送付が1月では遅い。もっと早くして貰いたい。それから申込用紙の自署について、継続加入の意思表示をしたら加盟団体に任せるとか、自署は不用にするとか検討して貰いたい。

○尾形(好):翌年度の保険料が決まる損害率が出るのが10月中旬で、それから案内の作成にかかるため1月の送付になっている。12月中に送付できるか検討したい。申込書の自署は、保険加入の条件として定められているので、無くすことは難しいが、継続加入者の対応については保険会社と検討したい。

◎第5号議案、提案通り承認。

◎第6号議案、提案通り承認。

(6)第7号議案 公益社団法人移行時の会長選任について

尾形専務理事より議案書に基づいて公益社団法人移行時の会長の選任について承認が諮られた。

◎第7号議案、提案通り神崎忠男氏の会長選任が承認された。

(7)第8号議案 公益社団法人への申請及び定款変更(案)、諸規程(案)について

尾形専務理事より先ず、議案書に基づいて公益社団法人の移行時期について説明し、承認が諮られた。

◎公益社団法人の移行時期については、平成25年4月1日を公益社団法人移行登記日とし、同日公益法人となることを目指すことを承認。

次に尾形専務理事より公益社団法人の定款変更(案)について説明し、承認が諮られた。

\*遠藤(新潟):第9条の「除名」と第10条の「会員の資格喪失」の関連について伺いたい。第10条の総正会員の同意とは当該正会員も含まれるのか。

○議長:第9条は正会員の除名であり、第10条は賛助会員を含めた会員の資格喪失の定めである。

\*遠藤(新潟):第13条の「権限」と第18条の「決議」の関連について伺いたい。

○尾形(好):第13条は総会で決議する事項の規定。第18条第3項は、総正会員の議決権の3分の2以上でないと決議できないという決議事項である。

\*遠藤(新潟):第19条の2行目の文言はおかしくないか。

○尾形(好):確かに「議決」ではおかしいので、確認したい。

\*遠藤(新潟):同じく第19条の委任の件について、正会員以外に委任することはできないのか。

○尾形(好):それはできない。

\*遠藤(新潟):総会の決議事項に「定款の変更」しかないが会費、分担金を規定する「会員規程」や「加盟団体規程」についても理事会の決議ではなく、総会の決議にしてもらいたい。

○尾形(好):新しい公益法人では理事の権限と責任が重くなると云う事は、これらの規程が理事会の決議でできるという事である。

\*遠藤(新潟):第33条の「決議について特別の利害関係を有する理事を除く」とあるが、会費や分担金などの場合も該当する正会員理事は外れて学識経験者理事だけで決議するのか。

○國松:ここで規定する「特別の利害関係」とはそういうものを規定しているものではない。

\*市村(高知):第4条第1項第5号の「登山に関するルールの制定」について説明願いたい。

○尾形(好):これは「登山及び山岳スポーツ」にもかかっており、登山ではマナーとか山岳憲章にあたる。

○西内:U I A Aでは高所登山の薬物使用が問題となっており、これらのルール制定なども含まれる。

\*木村(香川):この定款変更(案)に基づいて岳連の定款・規程も見直す必要があるのか。

○尾形(好):この定款変更(案)に準じて見直すところ

ろがあれば見直していただきたい。

○松元：都岳連でも現在、公益社団法人への移行に向けて定款等を検討しているが日山協の定款変更(案)を参考にしている。

\*木村(香川)：各岳連用に文言などの見本を提示してもらえれば見直しの参考になる。

○國松：日山協が公益法人に移行した場合は、各岳連は日山協の定款に基づいて活動するようになる。各岳連が新たに諸規程を作る場合、日山協の定款で定める目的や事業などで著しく逸脱するようなことがなければ、細部について雛形を出す必要はないと考える。

\*峯本(愛媛)：監事の報酬と任期について伺いたい。定款変更(案)では常勤の監事のみ報酬を支払うことになっているがそれで良いのか。監事の任期は4年にすべきとの指導を受けたが2年で良いのか。

○尾形(好)：監事の報酬に関しては無報酬とし、外部監事については、年2回の監査時に監査料として支払いたいと思っている。監事の任期については4年という縛りは無く、理事と同じく2年とした。

\*峯本(愛媛)：監事も役員なのでそのような支給は認められないと思うので、確認してはどうか。

○尾形(好)：役員報酬に関しては、確認したい。

○議長：質疑が出尽くしたようなので、承認を諮りたい。公益社団法人日本山岳協会定款変更(案)について

◎第19条及び第27条の一部文言を確認し、訂正が必要な場合は訂正すること、及び附則に公益社団法人移行時の会長(代表理事)名を記載することを含めて承認  
続いて尾形専務理事より公益社団法人の会員規程(案)、加盟団体規程(案)、役員選考規程(案)について説明した後、承認が諮られた。

\*亀尾(鳥取)：昨年の理事会で評議員会を無くすことは問題があるとの意見が出されたが、この件は、加盟団体規程第7条のに反映されたと解釈してよいのか。それと以前は定款施行細則(案)で役員の定年が規定されていたが、今度の会員規程(案)では規定されていない。定年制は設けないという事か。

○尾形(好)：ご指摘の通りである。評議員会に代わるものとして加盟団体規程に規定した。70歳定年については組織の現状を踏まえて規定しないことにした。

\*遠藤(新潟)：昨年8月の臨時理事会議事録では、会費については検討委員会を設けてじっくり検討したい、とあるが。検討委員会はどのようなメンバーで構成し、何回ほど開催されたのか。

○尾形(好)：時間的な問題もあって正式な検討委員会は設けず、公益法人化担当三役と事務局で試算し、11月の臨時理事会、2月の評議員会に提案した。

\*遠藤(新潟)：本県としては3月31日の理事会に諮らなければ決めかねるので持ち帰って検討したい。

○松元：立場上都岳連も同じだ。母体が大きくても財政的には厳しい。緩和措置を取って貰ったので、この値上げを了承した。日山協でも将来的に分担金に頼らない財源確保の策を練っているのでは、ご協力願いたい。

\*遠藤(新潟)：緩和措置の「当分の間」とはいつ頃までなのか。

○尾形(好)：資料の財源計画にも示したように構成団体に係数を乗じる分担金収入は、これから減る一方である。登録料や登録制度等を早急に見直し、安定財源の確保を図りながら平成33年頃までには分担金の係数見直しを図りたい。

\*遠藤(新潟)：緩和措置の文言は、規程に盛り込まれるのか。

○尾形(好)：運用面の内規で対処し、通知したい。

○議長：ほかに質疑が無ければここで承認を諮りたい。公益社団法人日本山岳協会会員規程(案)について

◎提案通り、承認

公益社団法人日本山岳協会加盟団体規程(案)について

◎第8条の一部削除したもので承認

公益社団法人日本山岳協会役員選考規程(案)について

◎提案通り、承認

## 9 報告

(1)公益社団法人移行時の副会長・監事候補者の推薦について

尾形専務理事より資料に基づき公益社団法人移行時の監事候補者については、平成24年2月の評議員会で「会長・副会長・監事選考委員会」で選考し、5月の総会に諮って選任することが承認されたと報告。

副会長候補者についても平成24年3月の理事会で「会長・副会長・監事選考委員会」で選考し、5月の理事会及び総会に諮って選任することが承認されたと報告。

(2)公認スポーツ指導者新登録管理システムについて

永井常務理事から資料に基づき新しい登録管理システムについて説明があった。

(3)国体第2期実施競技選定に係る中央競技団体ヒヤリング調査について

高山常務理事より口頭にて経過を報告。

(4)第51回全日本登山体育大会について

仙石常務理事より開催要項について説明。

(5)その他

\*宮本(長野)：山岳図書資料館への図書寄贈のお願いと長野県山岳総合センターの指定管理者についての報告があった。

## 10 閉会

## 平成24年度主な事業計画

### 1 会議・他

- ・総会 5/20(日)、3/10(日)
- ・理事会 5/19(土)、11/11(日)、3/10(日)
- ・評議員会 2/17(日)
- ・全国参加会 10/27(土) 福井市
- ・新春懇談会 1/19日(土)アルカディア市ヶ谷

### 2 専門委員会総会

- ・競技委員会 4/1(日) 東京
- ・指導委員会 6/9(土)～10(日) 東京
- ・遭難対策委員会 6/23(土)～24(日) 茨城
- ・国際委員会 6/23(土)～24(日) 神奈川
- ・自然保護委員会 9/8(土)～9(日) 北海道

### 3 青少年育成事業

- ・第55回全国高等学校登山大会 8/7(火)～11(土)  
新潟県、苗場・平標山
- ・第3回全国高等学校選抜クライミング選手権大会  
12/22(土)～23(日) 加須市市民体育館
- ・「みんな集まれ！ジュニア登山教室 in 立山」  
8/9(木)～12(日)  
国立立山青少年自然の家、立山周辺

### 4 安全登山啓発事業

- ・中高年安全登山指導者講習会
  - ①東部地区(石川・白山系) 9/21(金)～23(日)
  - ②西部地区(愛媛・皿ヶ嶺系) 10/12(金)～14(日)
- ・山岳レスキュー講習会
  - ①西部地区(富山県・国立登山研修所)  
1/25(金)～27(日)

②東部地区(長野県・長野県山岳総合センター)  
8/31(金)～9/2(日)

- ・第51回全日本登山体育大会 10/27(土)～29(月)  
福井県・福井市、芦原他
- ・第51回海外登山技術研究会 2/23(土)～24(日)  
八王子大学セミナーハウス
- ・平成23年度全国山岳遭難対策協議会 7/11(水)  
東京・文部科学省3階講堂

### 5 競技運営事業

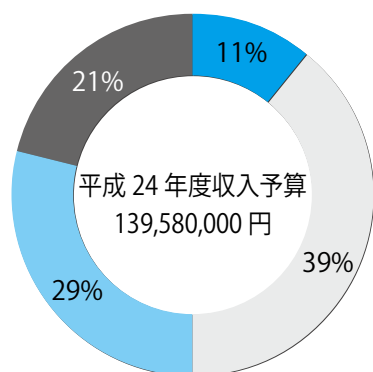
- ・第26回リード・ジャパンカップ 6/9(土)～10(日)  
岐阜県岐阜市
- ・第15回JOCジュニアオリンピックカップ  
8/11(土)～13(月) 富山県南砺市桜が池cc
- ・ルートセッター全国研修会 8/14(火)～16(木)  
富山県南砺市桜が池cc
- ・IFSCワールドカップ印西2012大会  
10/27(土)～28(日) 千葉県印西市
- ・第8回ボルダリング・ジャパンカップ  
2/23(土)～24(日) 東京都・駒沢公園
- ・第67回岐阜国体山岳競技大会  
9/30(日)～10/2(火)岐阜県岐阜市

### 6 競技力向上事業

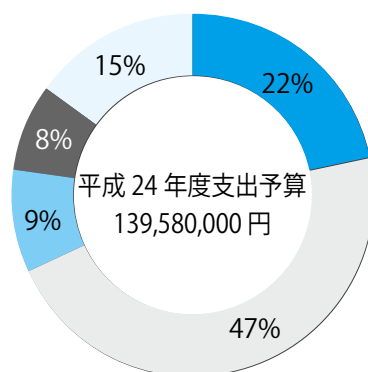
- ・世界選手権大会 9/12(水)～16(日)  
フランス・パリ
- ・世界ユース選手権大会 8/29(水)～9/1(土)  
シンガポール
- ・アジア・ビーチ 6/18(月)～20(水) 中国・海陽
- ・アジア選手権大会 4/25(水)～28(土) 中国・百色市

## 平成24年度収支予算

収入予算 (千円)		
会費	14,920	
事業収入	55,040	
委託事業	40,000	
補助金	29,500	
財産運用	120	



支出予算 (千円)		
公益Ⅰ	30,360	
公益Ⅱ	65,470	
公益Ⅲ	12,100	
公益共通	10,810	
法人	20,840	



## 第41回 Mountain World

### パキスタン冬季登山 ガッシャブルム I 峰の明暗

池田常道

チベットとネパールの8000m峰9座が2009年のマカルーを以てすべて登られ、昨年はガッシャブルム II 峰も登頂されたので、冬季未踏で残るのはパキスタン（カラコルムおよびカシミール）の4座となった。今季は、そのうち3座に登山隊が殺到したが、成功したのはガッシャブルム I 峰のポーランド隊だけ。南面から挑んだ国際隊は、同日、頂上攻撃中に3名が消息を絶って、明暗を分けた。またK2でもロシア隊の1名が死亡して断念、ナンガ・パルバットの2隊も敗退した。

アルトゥール・ハイゼル隊長以下6名のポーランド隊は、通常ルートの北面ジャパニーズ・クーロワールにルートを探って3つのキャンプを展開。2月26日に頂上を攻撃したものの、天候悪化で敗退した。一方ゲアハルト・ゲシュル隊長（オーストリア）以下の国際隊は、前年に引き続いて、ヒドウン・ピーク南峰からの新ルートを目ざした。1980年にフランス隊が登ったラインの左手にある氷雪壁を直登するもので、最後は1958年アメリカ・ルート（南東稜）に合して頂上に至る。

2月下旬の頂上攻撃に失敗した両隊は、「3月に入っても一緒に登頂しよう」という合言葉の下、3月9日に頂上を目ざした。幾分高い地点に最終ビバークを置いたポーランド隊のアダム・ビエレッキとヤヌシュ・ゴワブは午前8時半に頂上を陥れた。一方、ゲシュル隊長とセドリック・ヘーレン（スイス）、ニサル・フセイン・サドパラ（パキスタン）のトリオは、前日午前10時半に頂上まで450mと連絡したあと、午後2時には登高中の姿がBCのアレハンドロ・チコン（スペイン）に目撃された。しかし、おりからのソーラーフレアで通信が途絶、回復したあとも連絡が取れなくなった。パ陸軍ヘリによる空からの捜索に加えて、急遽呼ばれたシムシャル・ポーターによる地上からの捜索がC2までの区間で行われたが、結局なんの手がかりも得られなかった。

K2にはヴィクトル・コズロフ隊長以下16名のロシア隊が、2007年8月に成功したK2西壁の再現を

狙って南南東リブに取り付いた。しかし、2月2日7200mまでルートを伸ばしたものの、凍傷でBCに下っていたヴィタリー・ゴレリクがBCで肺水腫に陥り、悪天候で5日間、救援のヘリが飛べないうちに亡くなった。ナショナル・チームのプライドを賭けた挑戦はここで終わった。

ナンガ・パルバットでは、マカルーとガッシャブルム II 峰を制したシモーネ・モーロ（イタリア）とデニス・ウルブコ（カザフ）が西壁に挑んだ。通常ルートは氷雪の状態が悪いので、北峰 I 西壁にルートを探ったが、結局6600mで諦めた。この結果、これまで冬季登頂された8000m峰は11座となり、うち9座がポーランド隊あるいはポーランド人が関与したチームによるものである。

#### ◎冬季8000m峰初登頂クロニクル

（Pはポーランド隊あるいはポーランド人を含む隊によるもの）

- 1980年2月 エヴェレスト8848m (P)
- 1984年1月 マナスル8163m (P)
- 1985年1月 ダウラギリ I 峰8167m (P)
- 1985年2月 チョー・オユー 8201m (P)
- 1986年1月 カンチェンジュンガ8586m (P)
- 1987年2月 アンナプルナ I 峰8091m (P)
- 1988年12月 ローツェ 8516m (P)
- 2005年1月 シシャパンマ (P)
- 2009年2月 マカルー 8463m (イタリア・カザフ隊)
- 2011年2月 ガッシャブルム II 峰8035m (イタリア・カザフ・アメリカ隊)
- 2012年3月 ガッシャブルム I 峰 (P)

\*ダウラギリ I 峰は1982年12月13日、シシャパンマは2004年12月11日にそれぞれ登られているが、現在公に認められている北半球冬季の定義（冬至から春分の前日まで）から外れている。

\*残る冬季未踏峰はK2、ナンガ・パルバット、ブロード・ピークの3座となった。



パキスタン山岳会が開いた追悼式



赤石岳は、赤石山脈の静岡県と長野県にまたがる標高3,120mの山である。南アルプス国立公園内にあり、日本百名山に選定されている。

山腹の南斜面は、大井川支流の赤石沢の源流になっている。山名は、赤石沢に多い山体の一部を構成する赤色のラジオリチャート岩盤に由来し、明治以降に称されるようになったとされている。赤石山脈の名は、この山から転用されたものである。

赤石岳は、北岳・間ノ岳・悪沢岳について、南アルプス4番目の高さである。山頂には一等三角点が設置されており、一等三角点としては最高所のものとなっている。山頂直下南に赤石岳避難小屋があり、約700m北に小赤石岳のピークがある。

稜線の東側斜面にはいくつかの圈谷が見られ、これ

は日本国内では最南端の氷河の痕跡である。また、小赤石岳から赤石岳山頂にかけては森林限界のハイマツ帯で、多くの高山植物が広がっていて、ライチョウの生息地となっている。

静岡県山岳連盟は、昭和22年6月15日に静岡市で発会式が行われ創立した。昭和39年には南アルプスが国立公園に指定され、これを記念して全日本登山体育大会を、赤石岳を中心に南アルプスの南部で実施した。

連盟の事業としては、50回も続いている冬山登山講習会やスポーツフェスティバル登山大会、海外登山等の活動をしている。

南アルプスは、加盟団体のホームグラウンドとして、各シーズンを通して登られているが、近年鹿による高山植物の食害が多く、行政や各団体とも協力し自然保護活動にも力を入れている。

(静岡県山岳連盟会長 滝田博之)

## お国自慢の山④

## くじゅう山系

くじゅう山系は硫黄山からいつも噴気の上っている活火山の山である。1,700mほどのピークが10個、その他のピークを合わせると20余個集まった連山で、それぞれのピークに特徴があり、色々な方向から登れる登山道を持っている。ミヤマキリシマの群生地は九州の中で一番の広さを持ち、特に平治岳、扇が鼻、大船山、久住山等に多く分布している。またコケモモは九州で唯一の群落である。坊ヶつる・タデ原(長者原付近)の二つの湿地帯は「ラムサール条約」に登録され、高層湿原として貴重な植物の宝庫となっている。南と北の久住高原、飯田高原には野焼き後にキスミレ、エヒメアヤメやヒゴタイ等の花も見られる。久住山頂からは久住高原から阿蘇の外輪山までの日本一広い高原も見ることができる。

岳連との関わりは、昭和2年に「坊ヶつるのダム設置計画」を知り、岳連初代会長の加藤氏の「大船山貯水池」に関して反対陳情書により中止させる。(群馬県の尾瀬ヶ原の東電のダム中止と同様)その頃から貴重な植物の保護に取り組み、清掃登山や登山道の整備等も行っている。近年くじゅう山系の野焼きが縮小され、ノリウツギ、アセビ、ヤシャブシ等の植物が侵入してミヤマキリシマが枯死し、群生地が四分の一ほど



に減少したことから、平成16年には環境省・森林管理署・NPO久住・岳連でミヤマキリシマの試験地を設け、雑木伐採と翌年からの雑木の芽欠き等を行っている。本年より環境省の許可を得て、平治岳の伐採を行っており、順次他の地域の許可を申請している状態である。

中岳直下の避難小屋は80年経過し老朽化したので、取り崩すとの情報に、前会長とともに、森林管理署に「冬の登山では避難小屋は絶対に必要」と陳情し、平成21年に改修工事が終わり、使用可能となる。赤川登山道では近年の豪雨により、登山道が深く掘れて歩きにくいので、大分大学・NPO久住と一緒に一昨年から金網と木の丸太を使った階段を作っている。

(大分県山岳連盟会長 後藤利雄)



# BMC International Winter Climbing Meet 2012 報告

1月23日から28日の6日間、スコットランドで開催されたBMC International Winter Climbing Meet 2012に、日本山岳協会からの派遣という形で、長門敬明と増本亮の2名が参加した。今回のミーティングの感想について記す。

まずはBMC International Winter Climbing Meetの簡単な説明をしたい。簡潔に言えばBMC(英国山岳協議会)主催の国際クライマー交流会。世界各国から2名ずつクライマーを招集し、共に登り、語り合うことで各国クライマーとの交流、技術交換などを行い、さらには各国の山岳協会との繋がりを強固なものにし、アルパインクライミングを普及、発展させようというのが趣旨らしい。流石、BMCといったところ。今回も総勢40名のゲストクライマーと、同等のホストクライマーが集まった。また、この開催にあたり実務、運営ではBMCの人々がクライミングに参加しないで運営を陰から支えていることに、BMCの懐の深さを痛感した。

6日間の日程で、毎日クライミングを楽しんだことに疲労を通り越した大きな感動を覚えたのが正直なところ。これから簡単だが日を追って述べていく。まず1月23、24日の2日間は、宿泊地のGlenmore Lodgeから車で10分ほどで駐車場、その後は徒歩で1時間の行程、Northern Cairngormsというエリアに行った。2日間のホストは若手で今、もっともイギリスで势力的クライマーの一人であるウィル・シムというイケメンだった。ウィルはデナリのカシンリッジ最速記録の持ち主で、パタゴニアでもその強さを発揮しているバリバリのクライマーである。増本、長門とも初めてのスコットランドだったので足慣らし程度を想像していたが、最速の男ウィルについていくと初日からルートを2本登るはめになった。ホストがホストだ



けにちょっと懸念していたが、現実はかなり連れ回された結果となったが、スコットランドを満喫できたのは満足することだった。

よくクライマーの間の噂では日本に近いコンディションの岩場だと言われているが、草付きやブッシュの類いは全くなく、とてもすっきりした綺麗な岩だったのには感激した。特に注目すべきは、このエリアの岩にクラックが多いことだった。また、海が近いスコットランドでは潮風が強く、冬に吹く風は湿り気があり、エビのシッポが岩場全体を覆っているのだ。クラックの中も氷で覆われていることが常だった。日本ではプロテクションにカムを多用するが、ここではカムが滑って効かないのでナッツやヘキサセントリックをピックやハンマーで叩き込むことがよくあった。Northern Cairngormsのスケールは小さい。せいぜい標高差で100mほどである。だが、クラックが発達しているのでルートはいくらでも取れるのだ。トポには所狭しにラインが描かれているのには舌をまく。それにボルトなし、残置物が極端に少ないのは、限りある資源を、妥協のない最小のダメージで抑え、岩場と対等に渡り歩いている証拠のように僕には見えた。また、聞く話では週末にこの岩場だけでも100人はクライマーが集まると言っていた。イギリス人アルパインクライマーの層の厚さに驚くばかりだ。ちなみ初日だけでもBMC International Winter Climbing Meetの参加者だけで、30人は取り付いていた。

実際のクライミングについてだが、とにかく弱点を攻めるのが定石だと思ってしまう僕だが、ウィルは傾斜の強いフェースを選んでいて。地元の強みかもしれないが、優しいラインには目もくれずに難しいところを攻める。まったく躊躇することがない。緊張するシーンでも楽しんでさえいたのには驚いた。登り終わると毎回、満面の笑みをこぼしながらクール、クー



宿泊所の Glenmore Lodge



ルと言っはクライミングの恐怖さえ完全に受け入れ、許容した寛容さを披露してくれた。なにかイギリス人クライマーの強さの片鱗を見たようだった。そんなウィルのアックスはグリベルの凄まじく曲がったものだった。僕はペツルの

クォークを使っているが、これでもカーブが浅く、傾斜のある壁には不向きだと言われた。よくよく周りを見てみると、ゲストクライマーの登れる人々もペツルのノミックが普通だった。時代は進んでいる。新しいギア、その可能性は実用しないと使えるか、使えないかは分からない。単純なことだが、いろいろな面で刺激を受けた。

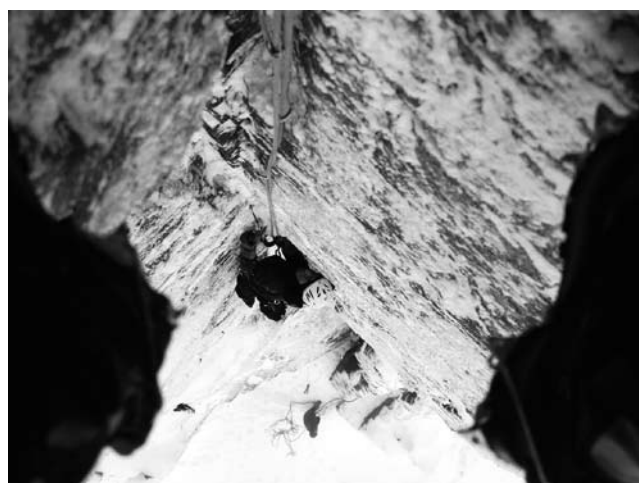
登攀を終え夕方の6時頃にGlenmore Lodgeへ帰ると、食堂には今日の成果を熱く語る各国のクライマーが食事を共にしていた。英語をあまり話せない我々だったが、根気強く耳を傾けてくれるクライマーとジェスチャーを交えながらクライミングの話で盛り上がった。またGlenmore Lodgeの食事最高。イギリスの食事情に警戒していたが、かなりしっかりしたディナーになっている。食後はスライドショーで、さらなる満腹を満たしてくれた。寝床につく頃には、ここはクライマーの天国かと思うほどの充実感を抱えていた。

1月25日は生憎の雨。流石にウィンタークライミングは無理なのでスポーツミックスのエリアへ。ケイブの中にはチッピングで作られたドライツェーリングルートがあり、傾斜が130度以上あるルートを一日本中楽しむことが出来た。トラッドで有名な国でも、ボルトがあるところとナチュラルに登る岩場との棲み分けがしっかりしている。要するにトラッドはトラッド、ボルトはボルトである。曖昧な妥協はないようだ。

1月26日は早朝5時出発でSouthern CairngormsのLochnagarというエリアへ行くことに。この日からはホストも替わり、サイモンさんという中年の強くて登れるクライマー。ここは初日の岩場とは違い比較的長いアプローチ、日本でいったら谷川岳のような位置づけらしい。クライミング自体も長く6ピッチとスコットランドに来て手応えのある登攀を味わえた。

ルートはサイモンさんのお勧めで困難性の高いルートを登ることになった。どうやら上部に傾斜のあるフェースが待ち受けている。初めて組むパートナーと分かり合うには、クライミングでロープを結ぶとすぐに見えてくる。サイモンさんと僕も、そう時間のかかることではなかった。午後には相手が何を欲しているのか言葉ではないところで通じ合っていた。日も暮れる前に垂直のフェースを登り終えた者同士で、ガッチリ固い握手を交わせたことに喜びを感じた。

1月27日は念願のBen Nevisへ行くことになった。またもや早朝5時発で、大勢の移動になりBMC所有の15人乗りバス3台でドライブ。日が登る頃にアプローチ、今日の目標は新ルートとなった。『お前なら楽しく登れるから、新ルートにいこう。』と、サイモンさんは朝から熱っぽく語った。Ben Nevisは標高が1400mもないイギリス最高峰の山だが、壁は谷川岳や穂高の屏風岩ぐらゐのスケールがあり、横幅がある。ちょうど谷川岳の烏帽子岩奥壁を横に3つぐらゐ並べたワイドさがある。もちろんロングルートも数多くある。僕は、いくつかの資料を読んだことがあったので長大なルートに想いを寄せてはいたが、今回はホストの情熱に付き合うことにした。短い内容のあるラインにチャレンジとなった。核心ピッチはちょっと被ったコーナーとなる。世界的にも強く、偉大で冒険的な記録を打ち出し続けているイギリス人クライマーが育ったこの地で下手なことは出来ない、日本人クライマーの底力を発揮しようと挑んだ。2ピッチの油断ならない登攀後、いよいよ核心のコーナーにさしかかった。慎重にプロテクションを選び、ジリジリ登っていく。初登攀のルートは脆く、先が見えない、いくつかの岩が剥げては落ちそうになる。極小のエッジをつなげてなんとか完登。サイモンさんがセカンドで上がって来たら、最高の笑顔で祝福してくれた。「お前は強いぞ」と言ってくれたが、40歳中盤のあなたも相当な実力だと思った。スコットランドの底力は計り知



れない、長年登り尽くされている Ben Nevis であっても、まだまだ冒険的ラインが残されているのに感慨深かった。ちなみにルート名はイギリス人に馴染みのある日本語で「S A K E、酒」となった。

1月28日の最終日は、Glen Coe というエリアへ。この日は週末の土曜日だったのでクライマーが至る所にいた。やっぱり、スコットランドはクライミングの認知度が日本と違いすぎる。この日も3Pのルートだが印象深いルートに登れた。ヘトヘトになるまで登り倒した6日間の連続登攀は、体の芯まで疲れ果て、だが満足感でいっぱいだった。環境と天気、なによりもパートナーであるホストたちに恵まれた6日間だったし、伝統を崩さないスコットランド精神をクライミングで感じた日々だった。

今回の経験から感じたことは、やはりアルパインクライミングとは創造的な冒険行為ということであった。冒険的行為は先の見えないものだが、最高に楽しいと世界共通の感覚として得たと思う。イギリス人を見ているとその楽しみ方を遥か昔から熟知しているようだった。現在の日本でそれを実践している人や岩場

がどれだけいるのだろうか？僕の知る限りでは、ある一部に見えるとしか感じない。スコットランドの岩場では、フィールドに冒険的な意識が垣間見える。ナチュラルなルート、それはパイオニア精神の片鱗を感じさせてくれるもので、今も昔も培ってきた文化であると思う。現在の日本では未知の山、エリアへは興味が薄く、安全で人が集まる安易なところを嗜好しているように見受けられる。山の魅力はそれだけじゃないと僕は感じる。確かに一步間違えば、生死を分ける境界は至るところにある。だが、着実なステップアップと創造的な姿勢、揺るぎないモチベーションがあれば危険を回避し、有意義に冒険的アルパインクライミングを上昇できる。まだまだ未熟な自分だが、今回得たことをクライミングで実践し発信することで、意識の共有を図りアルパインクライミングの楽しみを少しでも伝えていきたいと感じた。

今回はこのような機会を与えてもらったBMCに感謝と、渡航費などで金銭的な援助と渉外、人選をいただき感謝の念でつきません。ありがとうございました。(記 長門敬明)

## 2012 ISMF Asian Championships & The 9th Gangwon Provincial Governor Cup Korea Ski Mountaineering Competition

2018年の冬季オリンピックをひかえ、スキーへの関心と盛り上がりを見せている韓国。江原道・平昌(ピョンチャン)で山岳スキーのISMF(国際山岳スキー連盟)公認アジア・チャンピオンシップ兼道知事杯レースが2月17日~18日に行われ、これに日本チームとして選手4名が参加した。

大会会場は、ソウルから高速で3時間ほど東に行った日本海に近い所。高速道路が延長し、魚が旨いとの評判もあって多くの韓国人たちが訪れている、さながら高級リゾート地。

今年は日本から女性の参加がなくチョット寂しかったが(過去優勝、準優勝勝など)、成年男子は日本か

ら強力な選手が参加した。4連覇がかかっているアジア・チャンピオン三浦祐司選手。日本チャンピオンの藤川健選手や同じ北海道の伊藤吉昭選手など、強力な選手が参加してくれた。

レースは韓国、日本、中国、など、約140名参加で、極寒のスキー場でまだ暗い、早朝6時にスタートした。前日のトライアルでは、寒さのあまり、さすがの北海道勢も途中で止めたほどだったが、大会当日は、少し緩んだ。とはいえ寒風マイナス15度で過酷なレースだった。

結果は、三浦選手が優勝し4連覇。2位に昨年同様地元の朴選手、3位、4位に藤川、伊藤選手が入った。



昨年と違い地の利を生かした朴選手と三浦選手の優勝争いが接戦で、最後の滑降で抜き去りゴールした。

前夜のプレゼン同様表彰式では、多くの選手同士の祝意など沢山の掛け声が飛び交い国際交流大会独特の楽しさだった。

翌日、選手たちはソウル郊外の国立公園の山にトレイルランニングに出かけたり、日本の「山と溪谷社」

と提携してアジア版ゴールデンピッケル賞を選定・授与している、「山と人社」のインタビューを受けたり、韓国の心優しい山屋のお陰で楽しい大会参加であった。

私は、大韓山岳連盟(K A F)、韓国山岳会(C A C)など旧知の方たちを表敬訪問して帰国までの時間を過ごした。  
(日本選手団監督 佐伯尚幸)

## 冰雪技術研修会

日本山岳協会主催の冰雪技術研修会(東日本)が富士山を会場として3月18日(日)～20日(火)に開催されました。研修会参加者4名、上級指導員養成講習会参加者4名、A級主任検定員養成講習会参加者4名、スタッフ4名の16名が参加し充実した研修会となりました。

上級指導員養成講習会では「安全確実な技術の本質をどう伝えるかが指導者として問われる。」という考え方が、終始一貫してこの講習会の指導の中心にありました。

18日(日)雨の中、馬返しから5合目佐藤小屋まで移動。佐藤小屋にて「冰雪技術」「遭難対策」等についての机上講習を受けました。特に、S A B(スタンディング・アックスビレー)におけるセルフレスキューに対応した技術のあり方。雪面における支点構築(スノーピケット、土嚢袋等利用)のあり方。事故発生から救出・搬送までの流れにおける必要事項等々について学びました。

19日(月)と20日(火)の午前中に佐藤小屋周辺において、机上講習で学んだことを実際に雪面において

実技指導を受けました。特に、前述したS A Bについて、滑落停止から自己脱出まで、講習生自らが、安全確実な技術について議論を交わしながら納得いくまで繰り返し実習を行いました。

我々、今回の講習生の議論の結果では、S A Bで滑落停止後ビレーループのカラビナにロープを仮固定し、両手が自由な状態でフリクションノットをつくる方法が、力の弱い女性でも確実に脱出できる方法ではないかという結論に至った。

また、支点構築においては、スノーピケットであれ土嚢袋であれ、それらを埋める穴の壁面とプラトーを確実につくるのが重要であることも実践を通し実感した。

夜の交流会においても「安全確実な技術の本質とは何か。」について、遅くまで熱く議論を交わし、大変充実した講習会でした。

今回学んだ「安全確実な技術」を各都道府県の山岳連盟、山岳協会においてしっかり環流していきたいと思えます。

ご指導いただきました日本山岳協会のスタッフの皆様感謝申し上げます。

(岩手県山岳協会 土井祐之)

## 千葉県山岳連盟創立60周年 記念式典・祝賀会

3月17日、千葉県山岳連盟創立60周年記念式典・祝賀会が開催されました。当日は日本山岳協会、各都県山岳連盟、千葉県教育委員会、千葉県体育協会より多数のご来臨を頂き、連盟加盟員、表彰者を含め120名余りと盛会でした。

式典では、会長挨拶の後、教育委員会、体育協会の祝辞、神崎日山協会長からは祝辞と同時に公益法人化の取組みと今後の山岳組織のあり方等多くの課題や方向性の提議がありました。表彰では国体をはじめとするスポーツクライミングの選手育成や競技力向上に多大な貢献を頂いた方々に感謝状を贈らせていただきました。

千葉県山岳連盟の創立は昭和25年11月で、60周年は一昨年(2019年)の国体開催で多忙の時期と重なり、その後の東日本大震災等もあり、延期してきましたが、ようやくこの日に催すことが出来ました。

この間の、長い歴史を歩んだ、関東岳連はじめ多くの岳友が集い、祝賀会では思い出話やこれからの方向など、歓談に時の過ぎるのを忘れるほどでした。

連盟の特質を述べればスポーツクライミングでは全国に先がけ、民間のクライミングジムや、公設のクライミングウォールが多く設置され、各種競技大会も早くから実施してきました。

この環境が子供たちを含めてクライミング熱を醸成し、今あるトップクライマーの誕生に結びつきました。国体山岳競技での成年男子登攀4連覇や天皇杯3連覇などの好成績はこの成果で、国際大会にも多くの選手

を輩出しています。

競技が隆盛を極める一方、山岳会や加盟員の減少、高齢化はいつでも同じ悩みの種ですが次の10年に向けて、登山の喜びの啓蒙、普及をはかり、事故防止や技術伝承など多くの課題に取り組んで行きたいと思えます。

(千葉県山岳連盟会長 宇野仁章)



## 平成23年度3月(24年3月)常務理事会議事録

日時 平成24年3月1日(木)

17:30～20:40

場所 岸記念体育会館103会議室

出席者 神崎会長、内藤副会長、國松副会長、八木原副会長、尾形専務理事、西内、仙石、佐藤、石倉、水島、北山、相良、谷口各常務理事

委任 松元副会長、高山、寺内、永井、堀井常務理事  
(18名中13名出席)

### 1. 専門委員会動静

3月常務理事会以降

(2月3日～3月1日)

#### [報告]

##### (1)指導委員会

2月6日(月) 出席者10名

ア 1月常任委員会議事録確認

イ 2月常務理事会報告

ウ 指導常任委員研修会の報告

・2/4～5、土合山の家

エ 平成24年度事業計画について

オ ハイキングリーダー小委員会について

カ 日体協新管理システムについて

キ 義務研修実施申請(福岡)について

ク SC指導員認定申請、SC上級指導員認定申請、アルパイン指導員認定申請について

ケ 氷雪技術研修会について

・大山(2/11～12)

・富士山(3/18～20)

コ B級主任検定員の検定基準について

サ スポーツ指導者認定申請に関して

##### (2)国際委員会

2月14日(火) 出席者10名

ア 第50回海外登山技術研究会に

ついて

・2/14現在の参加者数49人

・当日の役務分担について

イ 平成24年度国際委員総会兼海外登山遭難対策研究会について

・6/23(土)～24(日)、神奈川大学箱根保養所

・医療講演：斉藤繁

ウ 第51回海外登山技術研究会について

・海登研50年のアニバーサリー研究会の企画

・海登研50年の集大成を編纂

・第52回からの研究会の在り方について

##### (3)競技委員会

2月16日(木) 出席者14名

ア 国体第2期実施競技選定に係る中央競技団体ヒアリング調査報告

・平成31～34年度の山岳競技については、6月に正式か隔年の発表予定

イ 2月常務理事会報告

ウ 国体ブロック研修会報告

・関東(東京)、東海(愛知)、中国(広島)、北信越(福井)の各報告

エ ボルダリング・ジャパンカップの準備状況について

・出場申込：男子73名、女子43名

オ WC印西大会2012の進捗状況について

・次回打合せ：3月7日(火)

カ 平成24年度競技委員総会について

・4/1、日本青年館ホテル

キ 第3回全国高等学校選抜クライミング大会について

ク 国体競技運営員特別認定研修会(東京)について

ケ 後催催の準備状況について

コ 競技委員総会に向けての役割分担の確認

##### (4)自然保護委員会

2月21日(火) 出席者12名

ア 1月常任委員会議事録確認

イ 2月常務理事会報告

ウ 平成23年度評議員会報告

エ 平成24年度自然保護委員総会について

オ 尾瀬管理肩代わり問題に関する山岳団体自然環境連絡会の意見書提出について

カ コカコーラ・クリーンキャンペーンの提案について

キ 総合的山岳環境保全対策の推進に係る検討会について

ク 平成24年度事業計画について

ケ 風景地保護協定のあり方について

コ 常任委員研修会について

・6/23(土)～24(日)、湯の丸高原(予定)

サ 平成24年度自然保護委員会指導員研修会について

シ 自然保護委員会活動に向けた組織活性化の施策について

##### (5)遭難対策委員会

2月22日(水) 出席者7名

ア レスキュー講習会の反省

・1クラスの今後の取り扱いについて

・雪崩ビーコン操作の習得方法について

・雪崩ビーコン最新機種準備・調達について

イ 指導・普及の打合せについて

・ハイキング・リーダーの打合わせ会について

・インストラクターとリーダーの定義と区分について

・評議員会の質問事項について

ウ 常任委員研修会について

・5/12(土)～13(日)、上尾市・埼玉県立スポーツ研修センター

エ 平成24年度委員総会について

JMA

守ります。美しい日本の山。

あなたの保険は、  
安心して登山ができる保険ですか。

救助費用はタダではありません。

■平成22年山岳遭難の概況

(警察庁生活安全局地域課 平成23年6月10日)

発生件数 **1,942** 件 (前年対比 266 件増)

遭難者数 **2,396** 人 (前年対比 311 人増)

死者・行方不明者 **294** 人 (前年対比 23 人減)

詳しくは → [www.jma-sangaku.or.jp](http://www.jma-sangaku.or.jp)

お問い合わせは

**日本山岳協会山岳共済会**

事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター  
月～金 10:00～17:00 (土・日・祝日除く)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707

TEL: 03-5958-3396 FAX: 03-5958-3397

E-mail: [sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp](mailto:sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp)

- ・6/23(土)～24(日)、つくば市・ホテルレイクサイドつくば
- オ 全国山岳遭難対策協議会について
- ・7/11(水) 文部科学省3階講堂
- (6)ジュニア・普及委員会
- 2月24日(金) 出席者5名
- ア 平成24年度中高年安全登山指導者講習会について
- ・東部(石川)、西部(愛媛)地区講習内容について
- ・安全登山、登山者の問題関係講師：北村憲彦
- ・低体温症・熱中症等講師：金田正樹
- イ ジュニア・普及情報交換会の報告
- ・28名参加、広島、福井、岩手からの発表
- ・各岳連へのアンケート調査の検討
- ウ 平成24年度「ジュニア登山教室 in 立山」の準備について
- ・参加者募集、東日本大震災被災者の募集について
- ・案内ポスターの制作

- エ ハイキングリーダーについて
- ・指導委員会での検討会(2/25)

(7)広報委員会

- 2月24日(金) 出席者5名
- ア 『登山月報』について

- ①版サイズ変更について
- ②3月号の内容について

- ・キルギスからの報告(鈴木)
- ・評議員会報告(尾形)
- ・海外登山技術研究会報告(佐藤)
- ・ジュニア・普及情報交換会報告(谷口)
- ・レスキュー講習会報告(西内)
- ・関東地区岳連総会報告(茨城岳連)
- ・Mountain World(池田)
- ・山の切手シリーズ
- ・お国自慢の山
- ・JMA
- イ ホームページについて
- ・ドメインの変更
- ・登山月報のPDF掲載

2 その他の重要事項

(2月3日～3月1日)

[報告]

(1)指導常任委員研修会

2月4日(土)～5日(日) 於：谷川・土合山の家 永井常務理事

(2)関東ブロック研修会

2月4日(土)～5日(日) 於：国立オリンピック記念青少年センター

- 寺内常務理事、山本常任員
- (3)中国ブロック研修会
- 2月11日(土)～12日(日) 於：広島市・神田山荘 古林、安形常任委員
- (4)北信越ブロック研修会
- 2月11日(土)～12日(日) 於：福井県立クライミングセンター 森(庄)、山本常任委員
- (5)東海ブロック研修会
- 2月11日(土)～12日(日) 於：愛知西原、佐原常任委員
- (6)氷雪技術研修会
- 2月11日(土)～12日(日) 於：大山 永井常務理事
- (7)関東地区岳連総会
- 2月11日(土)～12日(日) 於：茨城県・日立那珂市 神崎会長、内藤、八木原副会長
- (8)日本勤労者山岳連盟第29回総会

- 2月18日(土) 於：晴海グランドホテル 八木原副会長
- (9)第50回海外登山技術研究会
- 2月18日(土) 於：ici club アースプラザ 神崎会長、八木原副会長、佐藤常務理事
- (10)平成23年度ジュニア・普及情報交換会
- 2月18日(土) 於：国立オリンピック記念青少年センター 本木顧問、神崎会長、八木原副会長、西内、仙石、谷口常務理事
- (11)平成23年度評議員会
- 2月19日(日) 於：日本青年館ホテル 神崎会長ほか
- (12)日本アンチ・ドーピング機構創立10周年記念式典・祝賀会
- 2月20日(月) 於：味の素ナショナルトレーニングセンター 神崎会長

寄贈図書

寄贈本	岐阜県山岳遭難防止対策協議会	『稜線』平成23年中の山岳遭難・山岳警備活動
	岐阜県北アルプス山岳遭難対策協議会	『平成23年・山岳白書』の送付
	山のECHO	『自然地域トイレ処理技術ガイドブック』
雑誌	立山・剣岳方面遭難対策協議会事務局	山岳遭難白書『平成24年 試練と憧れ』
	(独)日本スポーツ振興センター	『国立競技場50年の歩み』
	山と溪谷社	『ROCK&SNOW』055
	東京新聞	『岳人』No.778 4月号
	山と溪谷社	『山と溪谷』No.924 4月号
	日本山岳写真協会	『日本山岳写真協会ニュース』第384号 2月号
	兵庫山岳連盟	『兵庫山岳』第537号
	福岡山の会	『せふり』No.349
	健康・体力づくり事業財団	『健康づくり』3 No.407
	中華民国山岳協會	『中華山岳』227
	(財)日本万歩協会	『帰れ自然へアルク』4・5月号
	(独)日本スポーツ振興センター	『国立競技場』Vol.590
	日本スポーツ芸術協会	『Sports Arts』2012
	横浜山岳会	『山』957号
	(社)全日本ボウリング協会	『JBCニュース』第484号
	あゆむ山の会	『山とともに あゆむ山の会50年のあゆみ』
	(財)日本ゲートボール連合	『ナイスパル』No.327
	新潟山岳協会	『新山協ニュース』第293号
	山岳科学総合研究所	『山岳科学総合研究所ニュースレター』第31号
	日本武術太極拳連盟	『武術太極拳』No.269
(財)国立公園協会	『国立公園』701	
Corean Alpine Club	『山』No.222	
会報	日本体育協会・日本スポーツ少年団	『SUPPORT JUST』2012年3月号 vol.486
	長野山岳協会	『やまなみ』No.204
	大韓山岳聯盟	『大山聯』Vol.159
	日本体育協会	『スポーツニュース』3月12日号
	日本体育協会	『フェアプレイニュース』3月12日号
	スポーツ心のプロジェクト運営本部	『笑顔をありがとう』第2号
	愛知県山岳連盟	『愛知岳連ニュース』第397号
	岩手山岳連盟	『山のたより』第46号
	日本勤労者山岳連盟	『登山時報』No.446
	日本山岳文化学会	『山岳文化』第12号
	日本山岳会	『山』3月号
	日本ヒマラヤ協会	『ヒマラヤ』No.460
	日本山岳写真協会	『日本山岳写真協会ニュース』3月号
東京野歩路会	『山嶺』No.985	
中国登山協会	『山野』163期 2012.3	
新潟山岳協会	『新山協ニュース』第294号	
日本スポーツ振興センター	広報紙『スポーツ振興くじ』第44号	
六つ星山の会	『六つ星だより』94	
日本山岳会自然保護委員会	『木の目草の芽』	
日本フリークライミング協会	『Free Fan』#065	

- (13)「山岳救助―世界の最前線」講演会・Dr. John Elerton氏歓迎会  
2月20日(月) 於：プラザエフ 神崎会長
- (14)大阪府山岳連盟・東野隆副会長逝去 2月20日(月)
- (15)財務打合せ 2月22日(水)  
於：事務局 尾形専務理事、相良常務理事、小野寺事務局員
- (16)全国山岳遭難対策協議会幹事会  
2月23日(木) 於：文部科学省 西内常務理事、中川事務局員
- (17)IFSC総会 2月25日(土)  
於：アムステルダム 小日向常任委員
- (18)ハイキング・リーダー検討会  
2月25日(土) 於：八重洲ビル会議室 西内、永井常務理事
- (19)ボルダリング・ジャパンカップ  
2月25日(土)～26日(日) 於：長崎市 神崎会長、北山常務理事
- (20)国体競技運営員特別認定研修会  
2月26日(日) 於：東久留米市 寺内常務理事

### 3 議事

- (1)平成23年度2月常務理事会議事録の承認について(承認)
- (2)平成23年度評議員会議事録の承認について(2字訂正で承認)
- (3)平成23年度第2回理事会の議案について(提案通り承認)
- (4)平成23年度臨時総会の議案について(提案通り承認)
- (5)平成24年度自然公園指導員自然環境局長表彰及び指導員表彰候補者の推薦について(候補者推薦は、自然保護委員会に委任し、4月常務理事会に諮ることで承認)
- (6)平成24年度代表選手の派遣及び承認について  
(S代表3名、A代表4名の代表選手を承認。国際大会の参加条件については、選手強化委員会に差し戻し、再度検討することで承認)
- (7)平成24年度強化スタッフの推薦について(平成23年度と同じスタッフを推薦することで承認)
- (8)報告事項  
ア 会計月次報告  
イ 東日本大震災復興支援に関わる

- 平成24年度加盟団体等諸事業における冠等の付与に関する協力について
- ウ 『登山月報』のサイズ変更について
- エ HPのレンタルサーバーの更改と統合化について
- オ 遭難対策委員会活動報告と安全登山マニュアルについて

### 4 役員等の派遣について

- (1)故松平康隆氏の「お別れの会」  
3月9日(金) 於：青山葬儀所 尾形専務理事
- (2)「入山者ルール」及び「山岳憲章」制定検討会 3月16日(金)  
於：ニュー新ホール 内藤副会長
- (3)JOC総務委員会 3月21日(水)  
於：岸記念体育会館2階理事・監事室 尾形専務理事
- (4)「山の日」制定協議会  
3月21日(水) 於：岸記念体育会館 尾形専務理事
- (5)消防防災ヘリコプターによる山岳救助のあり方に関する検討会  
3月23日(金) 於：経済産業省 西内常務理事
- (6)日体協評議員会 3月28日(水)  
於：グランドプリンスホテル新高輪 内藤副会長
- (7)第14回秩父宮記念スポーツ医・科学賞表彰式及び受章祝賀会  
3月28日(水) 於：グランドプリンスホテル新高輪 内藤副会長
- (8)平成24年度競技委員総会  
4月1日(日) 於：日本青年館ホテル 神崎会長、内藤副会長、高山、北山、寺内常務理事
- (9)第7回山岳スキー選手権  
4月7日(土)～8日(日) 於：長野・梅池高原 八木原副会長
- (10)岐阜国体第1回基準会議  
4月22日(日) 於：岐阜・岐阜市 高山常務理事
- (11)会計監査 4月23日(月)～24日(火)  
於：岸記念体育会館 尾形専務理事、相良常務理事、福田、岡本監事

### 5 後援、協賛等の依頼について

- (1)JFAユース日本選手権2012\*ミレーカップ”後援名義について(承認)

### 6 報告

- (1)自然保護指導員の承認 なし
- (2)指導員の認定承認
  - ①SC指導員
    - ・北海道：青木寛敬、大沼大、木村宣幸、竹内靖志、細木輝雄、村中順一、南波幸祐、大井聡
    - ・山梨：安田賢、村松久徳、畑野克実、石原佳典、渡辺晴彦、内藤聡
    - ・神奈川：斉藤正、桜井純也
  - ②SC上級指導員
    - ・神奈川：児玉勉、小松垂生彦、山本和幸、飯山健治、高梨護、木嶋広、林道弘、増田深雪、坂本泰男、齋藤良弘、児玉晴美、鈴木正之
  - ③アルパイン指導員
    - ・長野：内川祥子、朝岡一郎、横沢邦子
    - ・神奈川：猪田武士、片倉順一、戸田優子、木村秀子、小林玲子、半田庄吾、藪坂元
  - ④アルパイン上級指導員
    - ・神奈川：大浦肇、宮守健太、落合正治、菊池稔
  - ⑤A級主任検定員(アルパイン)
    - ・鳥取県大山会場：岡谷良信、渡辺公二、鈴木一美
- ★以上、45名の認定を承認

### 編集後記

桜の開花と同時に新年度、4月に入った。春一番が吹かなかったせいか台風並みの「爆弾低気圧」の通過で日本列島は大荒れになった。地震や津波予測、気象情報など不安にさせられることが多いが自然体でありたいと思う。広報の今年度目標は紙面の充実はもちろんですが、会員の皆様との協働で協賛広告の獲得に努めたいと思います。なお一層のご理解ご協力をお願いします。

(広報担当 水島彰治)

**登山月報 第517号**

定価 100円(送料別)  
 予約年間 1,200円送料共  
 昭和45年12月12日  
 第三種郵便物認可  
 (毎月1回15日発行)

発行日 平成24年4月15日  
 発行者 東京都渋谷区神南1の1の1  
 岸記念体育会館内  
 社団法人日本山岳協会

電話 03-3481-2396  
 FAX 03-3481-2395